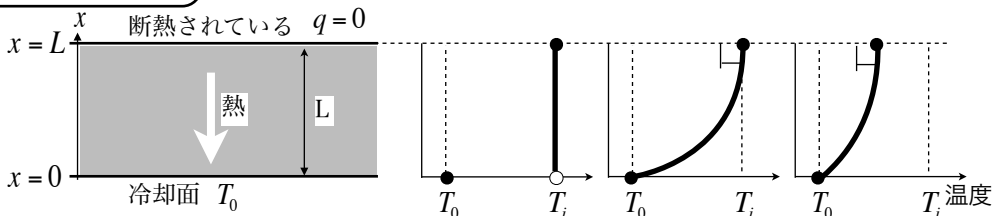


非定常問題2 有限の厚さのの平板内の伝熱 (変数分離法)

<有限の厚さの平板内の伝熱>

厚さLの無限平板が温度 T_i に設定されている。ある瞬間に下側の壁を T_0 に冷却する。もう一方の壁は断熱されている。



基礎方程式

エネルギーの式, 直角座標

$$\frac{\partial T}{\partial t} + v_x \frac{\partial T}{\partial x} + v_y \frac{\partial T}{\partial y} + v_z \frac{\partial T}{\partial z} = \alpha \left(\frac{\partial^2 T}{\partial x^2} + \frac{\partial^2 T}{\partial y^2} + \frac{\partial^2 T}{\partial z^2} \right) + \frac{Q}{\rho C_p}$$

簡単化

無限平板, 流速なし, 発熱なし

$$\frac{\partial T}{\partial t} = \alpha \frac{\partial^2 T}{\partial x^2}$$

変数変換
方程式を簡単に解くために, 新しく変数を導入

$$\frac{\partial \Theta}{\partial \tau} = \frac{\partial^2 \Theta}{\partial \xi^2}$$

初期条件 $T = T_i$ at $t = 0$

$\Theta = 1$ at $\tau = 0$

境界条件 $\frac{\partial T}{\partial x} = 0$ at $x = L$

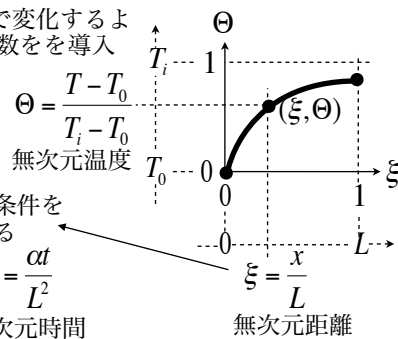
$\frac{\partial \Theta}{\partial \xi} = 0$ at $\xi = 1$

$T = T_0$ at $x = 0$

$\Theta = 0$ at $\xi = 0$

変数変換の考え方

0-1で変化するような変数をを導入



方程式と条件を簡単にする

$\tau = \frac{\alpha t}{L^2}$ 無次元時間

$\xi = \frac{x}{L}$ 無次元距離

変数分離法で解く

複数の変数の関数をそれぞれの変数のみの関数の積であると仮定

$$\Theta(\xi, \tau) = X(\xi) \cdot Y(\tau)$$

これで解が見つければ, それは求めている解である。 ← 線形微分方程式の解の唯一性

偏微分方程式に代入 $x(\xi) \frac{dY(\tau)}{d\tau} = Y(\tau) \frac{d^2 x(\xi)}{d\xi^2} \rightarrow \frac{1}{Y(\tau)} \frac{dY(\tau)}{d\tau} = \frac{1}{x(\xi)} \frac{d^2 x(\xi)}{d\xi^2} = -\beta^2$ 左辺は τ のみ, 右辺は ξ のみの関数
それが等しい場合は定数のみ (しかし未知)

1つの偏微分方程式が
2つの常微分方程式に!

$$\frac{d^2 X}{d\xi^2} = -\beta^2 X \quad X=0 \text{ at } \xi=0$$

$$\frac{dX}{d\xi} = 0 \text{ at } \xi=1$$

$$X(\xi) = A \sin \beta \xi + B \cos \beta \xi$$

$B=0$ 境界条件によって定数が決まる (固有値)

$$\beta_n = \left(\frac{1}{2} + n \right) \pi \quad n=0,1,2,\dots \rightarrow X(\xi) = \sum_{n=0}^{\infty} A_n \sin \beta_n \xi$$

$$\frac{dY}{d\tau} = -\beta^2 Y \quad Y=1 \text{ at } \tau=0 \quad Y(\tau) = C e^{-\beta^2 \tau}$$

$$\Theta(\xi, \tau) = \sum_{n=0}^{\infty} C_n \sin \beta_n \xi e^{-\beta_n^2 \tau}$$

この段階では初期条件はまだ適用していない

初期条件より無限級数の係数を導出 $\sum_{n=0}^{\infty} C_n \sin \beta_n \xi = 1$

無限級数の係数は固有関数の直交性により導くことができる。

$$C_n = \frac{2}{(1/2 + n)\pi}$$

$$\text{最終的な解 } \Theta(\xi, \tau) = \sum_{n=0}^{\infty} \frac{2}{(1/2 + n)\pi} \sin\left(\frac{1}{2} + n\right)\pi \xi e^{-\left(\frac{1}{2} + n\right)^2 \pi^2 \tau}$$

3年前期 実験7のレポートで再出

問題29 [A] の偏微分方程式を変数分離法, 固有関数の直交性を用いて解け。

問題30 問題27と同じ条件で $L = 0.5\text{m}$ として6分後までの時間経過をグラフにしなさい。(資料裏参照)

突然動き出す無限平板周りの流れ (無限平板周りの境界層-積分プロファイル法-)

プロフィール法

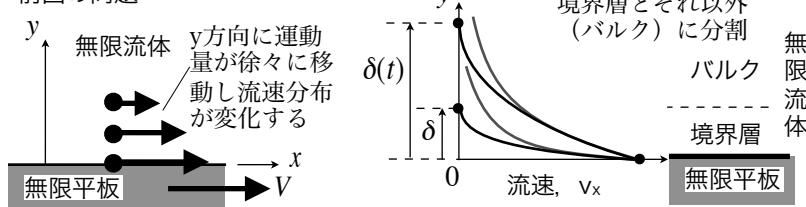
着目する領域を設定する (無限としない)
プロフィールを仮定する (多項式近似)

前回の解をマクローリン展開して, 多項式を決める。

$$\frac{v_x}{V} = \text{erfc}\left(\frac{y}{2\sqrt{\nu t}}\right) = 1 - \frac{1}{\sqrt{\pi}} \left(\frac{y}{\sqrt{\nu t}}\right) + \frac{1}{12\sqrt{\pi}} \left(\frac{y}{\sqrt{\nu t}}\right)^3 \dots \textcircled{7}$$

前回の仮定 $\frac{v_x}{V} = \phi(\eta) \quad \eta = \frac{y}{\delta} \quad \delta \propto \sqrt{\nu t}$
成法と同様に $1 - A + B = 0 \dots \textcircled{8}$

前回の問題

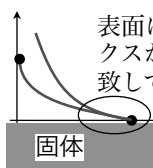


マクローリン展開から $\phi = 1 - A\eta + B\eta^3$ A,Bを決める条件
プロフィール関数を設定 プロフィール関数

境界条件 $\phi = 1$ at $\eta = 0$ — 設定時に満足している
 $\phi = 0$ at $\eta = 1$ $1 - A + B = 0 \dots \textcircled{8}$

境界層が成立する条件(重要!)

境界層を導入することで, 解析的に解けない系でも運動量流束(せん断力), 熱流束, 物質流束に関して表面に限定して答えを見つけることができる。しかし, 実際の速度は解析解どおりの分布であり, 境界層という別の層が存在しているわけではない。境界層理論を正当化するために課せられる条件とは→



表面におけるフラックスが実際の値と一致していること!!

$$\left. \frac{\partial v_x}{\partial y} \right|_{y=0} = V \phi'|_{\eta=0} \frac{d\eta}{dy} = -\frac{AV}{\delta}$$

解析解から $\left. \frac{\partial v_x}{\partial y} \right|_{y=0} = -\frac{V}{\sqrt{\pi \nu t}} \quad A = \frac{\delta}{\sqrt{\pi \nu t}} \dots \textcircled{9}$

$$\frac{\partial v_x}{\partial t} = \nu \frac{\partial^2 v_x}{\partial y^2} \rightarrow V \phi' \left(-\frac{\eta}{\delta} \right) \frac{d\delta}{dt} = \nu V \frac{\phi''}{\delta^2}$$

積分プロファイル法
境界層内で定積分
境界層は薄い

$$M \frac{d\delta}{dt} = N \frac{\nu}{\delta} \quad \delta = \sqrt{\frac{2N}{M}} \sqrt{\nu t} \dots \textcircled{10}$$

M, N はA,Bを含む定数
 $M = \int_0^1 (-\eta \phi') d\eta$
 $N = \int_0^1 \phi'' d\eta$

⑧,⑨,⑩よりAの値を求める。A=1.41561... 便宜性を重視して, A=1.5, B=0.5 を採用 (今後すべてこれを採用)

$$\phi = 1 - \frac{3}{2} \eta + \frac{1}{2} \eta^3$$

問題31 マクローリン展開で3次の項までを考慮し⑦を導出して下さい。